新学期が始まりました。小学生 14 名の奨学金支援者を募集しています

ビラーン通信 70号

2012 年 7 月 25 日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会
（英文名略称・ＨＡＮＤＳ）
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail: hands-mindanao@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/hands/
郵便振替口座　00210-5-72693
（加入者名）ビラーンの医療と自立を支える会

鉱山会社の一時操業中止の影響　－ビラーンの卒業生の近況から　－

鉱山会社サギタリス社で働いていると聞いていた元奨学生夫婦から、初めて手紙とメールが届いたのは 2 月の半ばでした。手紙の方は夫の元支援者に宛てたものでした。

銅鉱の露天掘り中止を求める市民組織やカトリック教会、住民の反対運動で、鉱山会社が操業を一時停止し、給与支払いもストップしたというものです。母親や子どもの入院が重なり、わずかな蓄えも消えて、妻の方は精神的に参っている様子でした。担当していたサギタリス財団の奨学金事業も中止となり、ビラーンの子どもたちが学校に行けなくなったこともショックのようです。

貧困の中で育った 2 人ですが、就職して、ローンでバイクや冷蔵庫が買える生活を経験したあとのどん底生活は限界だったようです。とりあえず、現地での相談先として CMIP の神父や、夫の村ボルール出身の看護師の名前を伝えました。すると、折り返し、どちらにも自分たちのことは知らせないでくれという返信が届きました。CMIP の神父たちは、カトリックマーベル教区の反鉱山開発運動の中心的役割を担っています。奨学生には、絶対鉱山会社の求人に応じないようにと指導してきました。故郷の村でも、鉱山会社に雇用されたものは裏切りもの扱いされているようです。

鉱山会社が先住民族内部の対立、反対運動の弱体化を狙って、教育を受けた青年を雇用するという事例は、16 年前の当団体発足時にも聞きました。ちなみに、当時はサギタリス社の前身といわれるオーストラリアの多国籍企業 WMC でした。

HANDS も、設立当初からのパートナーである CMIP と、プランテーション拡大や鉱山会社の露天掘りによる先住民族の生活基盤や環境破壊には反対の立場を共有し、各種事業で協働してきました。よい給与を提示した鉱山会社の誘いにのって働き、今は窮状におかれた 2 人を自己責任と割り切ることもできますが、犠牲者でもあるとしたら、悩みに寄り添うべきではと、奨学金の元支援者のご協力を得て緊急カンパを届けました。鉱山休業が長引く中で、5 月に受け取った 2 度目の SOS に際しては、わずかでも耕す土地があるならば妻の村に戻ってコーン栽培を始めることを勧めて、種子代をカンパしました。メールのできない山の村に戻ってから 1 カ月、まだ連絡はありません。親子 5 人元気でいることを願っています。

2011 年 5 月、サギタリス社の本拠地タンパカン町で行われた露天掘り反対のデモ。　（エドウィン神父提供）

7 月初め、CMIP のエドウィン神父から「露天掘りを禁止する大統領令 79 号が出た。先住民族の土地が荒らされないで済む」という報告がありました。しかし 3 日後には、「鉱山会社側もこの大統領令を歓迎しているらしい。単純に喜べない内容のようだ。しばらく慎重に見守る必要がある」と知らせてきました。前号でアキノ政権への期待に触れましたが、富裕層出身の大統領に大企業との対決ができるか、私たちも今しばらく注視したいと思います。（山崎）